

つながろう会

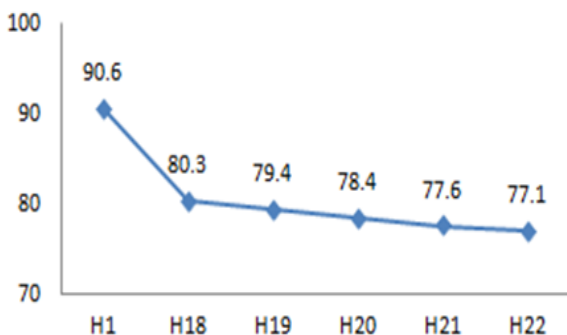
1. はじめに

つながろう会は、地域で活躍する人材の発掘と、中高生を地域につなげる仕組みづくりをテーマに活動する部会です。中高生の関心を把握するため、今期4回行った中高生ミーティングの結果を踏まえ提言します。

2. 背景

近年、地域活動に参加する人は減少しております。町内会の加入率は20年で13%低下し（図1の平成元年と平成22年の差）、またNHK放送文化研究所によると「現代日本人の意識構造」も親しい付き合いが30年で15%低下しているようです。（図2の全面的の1973年と2003年の差）

横浜市の町内会加入率（図1）

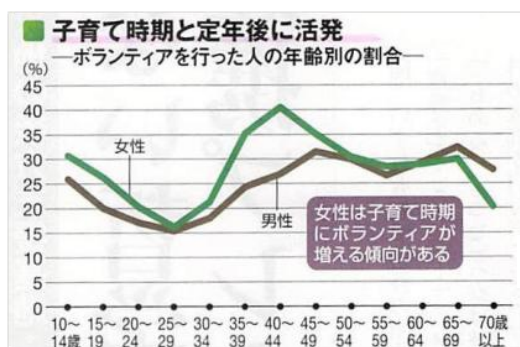


地域との望ましい付き合い方（図2）



NHK放送文化研究所「現代日本人の意識構造」

現在、地域活動に参加するのは、小学生、子育て中の主婦、高齢者が主となります。小学生までは子ども会などで、お母さんと一緒に地域行事に参加しますが、中学生になると参加しなくなってきます。（図3参照）



総務省「社会生活基本調査」（2006）（図3）

そこで、本部会は、地域と離れてしまった人をどのように地域とつなげるのかについて調査・協議してきました。「つながろう会」という名称も、地域とのつながりを作りだしたい、そんな思いから付けました。

3. 部会活動

(1) 中高生ミーティングの企画

どうすれば、中高生が地域活動に参加してくれるのか、まずは中高生の関心を知ることが先決と考えました。そこで、区内の中高生を集め、中高生である自分たちが、自分たちの参加したくなる行事を考えることで、中高生の関心を把握できるのではないかと思い、中高生ミーティングを企画しました。毎回終了後にアンケートをとり、感想や充実度を記入してもらい、考察に活かしています。

(2) 第1回中高生ミーティング

テーマ：中高生が参加し易い防災訓練とは

開催日：平成23年5月28日、参加者：17名、場所：ハート友



① 中高生の集め方

中高生の集め方は、悩む課題でした。当ミーティングは、部会委員の地域とのつながり（学校、町内会、知り合い）を基点に集まってもらいました。

	立 場	関 係	人 数
直接の知り合い	体育協会理事	体育協会の知り合い	10
	部活の外部指導員	部活の運動教え子	
	青少年指導員	町内の知り合い	
他組織へ依頼	町内副会長	子ども会（中学部）にお願い	3
	町内会長	P T A校外委員にお願い	2
	主任児童委員	栗田谷中に告知のお願い	2
掲示板	地域住民	町内の掲示板に貼り出し	効果なし

②集まってくれた中高生の顔触れ

9つの学校から、17人の小中高生が集まってくれました。

横浜共立学園高校	1
藤沢総合高校	1
光陵高校	1

栗田谷中学校	4
浦島丘中学校	3
神奈川中学校	3
錦台中学校	2
菅田中学校	1

青木小学校	1
-------	---

③ミーティングの様子

- ・参加した中高生は、意見を出し合い、自分たちで模造紙を使ってまとめていきました。
- ・中高生の意識の高さ、主体性の高さにビックリしました。

◇感想

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・なんか意見を出すことが楽しかった。・今日は、他中の人意見も聞いてよかったです。・いろんな意見がでて、話し合いができ楽しかった。・やっぱり、みんなが思っていることは、ほとんど一緒なんだなあと思いました。・グループで、みんなできちんと意見を出し合うことができ、震災の対策の大切さを知ることができた。・初めて会った人たちがとても明るく、楽しい活動だった。 |
|--|

④考察

- ・学校では普段言えないことが言え、その意見を他校の生徒も同じように考えていると共感できることに、充実感を得たようです。
- ・特に、学校生活で疑問や不満をテーマにしたディスカッションは、素直な自分の思いを表現できるので、話しやすかったと思われます。
- ・自分たちでもここまでできるのだという、自信にもつながったと思います。

⑤次への課題

参加者の満足度も高く、中高生のポテンシャルの高さを感じ、このまま散会するのは惜しいと感じました。再度、中高生に集まってもらい、次は、ここで出たアイデアを活かし、中高生の自主企画で防災訓練をできないか、試してみたいと考えました。

(3) 第2回中高生ミーティング

テーマ：防災の講習会を作ろう

開催日：平成23年9月25日、参加者：14名、場所：神奈川県民センター



①ミーティングの様子

- ・企画構成することが難しかったのか、上手く切り盛りできず、充実度は下がったように感じます。

◇感想

- ・来てほしい人を考えるのが大変でした。楽しめる防災訓練を考案するのは大変だと感じました。
- ・前回のより難しかったです(笑)たくさん意見を出し合ったけど、だいたい思っていることはみんな一緒なんだなと思った。

②考察

- ・初回のように学校生活で感じたことを主張するのではなく、企画構成をするとすると、アイデアは出るが、具体的なプランニングまで詰めていくのは難しい様子が見えました。
- ・任せることは大事ですが、丸投げのように過度に責任を負わせてしまうと、プレッシャーを感じてしまうようでした。
- ・大人たちが枠組みを整え、上手くサポートする環境が重要と感じました。

③次への課題

防災のテーマを続け、再度集まってもらえるか不安に感じました。一旦、防災のテーマから離れ、子ども達の関心の高いテーマを再設定し、それを足掛かりに地域につなげる仕組みづくりに必要な要素をまとめようと試みました。

(4) 第3回中高生ミーティング

テーマ：学校制服の是非

開催日：平成23年11月20日、参加者：12名、場所：反町ふれあいサロン



①ミーティングの様子

- ・第1回目のアンケートで、1/3の中高生が「興味ある」と答えた、「学校制服の是非」をテーマとし、予想以上に盛り上がりました。
- ・男の子チームが私服派、女の子チームが制服派と上手く分かれ、それぞれの性別を活かした個性を主張し合っていました。

◇感想

- ・もっと話し合いたかった。次回も違う話題についてこのように話し合いたい。
- ・もっと言いたいこともあったけど、楽しかった。負けたのは悔しいけど楽しかった。
- ・ちゃんと自分の意見が言えてよかった。制服も大切だと思うけど、やっぱり人の個性、自分の個性の出る私服の方が好きです！またしたいです。

②考察

- ・中高生にディベートをしてもらう初めての機会でしたが、予想以上に議論も噛み合い、討論できたことに対する自信にもつながったと思います。
- ・反論することに抵抗を感じるのか、議論とプライベートを切り離すことも難しく、友人関係や和を大切にする傾向がうかがえました。
- ・ディスカッションの際は仲間同士で、ディベートの際は学校対抗のような形式になり、距離感もよく、よいチーム構成となったのも盛り上がった要因だと思います。

③次への課題

このような形式での集まりなら、もっとやってみたいとの声もあり、次回もディベート形式での開催を検討しました。ただし、次回はテーマを中高生に決めてもらい、どんなテーマなら盛り上がるかも合わせて、調査したいと考えました。

(5) 第4回中高生ミーティング

テーマ：部活の練習の組み立てを生徒主体とするか、顧問の先生主体とするか

開催日：平成24年3月24日、参加者：9名、場所：神奈川地区センター



①ミーティングの様子

- ・テーマを決める際、円卓にして大人も含め全員で話し合いを試みましたが、中高生が意見を言いづらそうでした。中高生と大人のテーブルを分け、話し合いをしてもらったところ、中高生同士で活発に意見を出し合い、まとめていました。
- ・男の子チームが生徒派、女の子チームが顧問の先生派と分かれ、それぞれの置かれている環境や、部活で感じたことをベースに討論していました。

◇感想

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・今日の話が学校で話し合いたいと思います。またしたいです。ありがとうございました。・人の意見を聞くことができ、違った感想を持つことができるようになった。 |
|---|

②考察

- ・身近な学校生活をテーマにした話し合いは、話も盛り上がり、学校生活を前向きに考える機会にもつながります。このミーティングのひとつの方向性となりうると感じました。

③次への課題

1回目からリピートしてきてくれる生徒も多いですが、参加人数の伸び悩みが課題となっています。学校との連携や、ロコミを誘発する仕組みを今後考えていく必要を感じました。

また、集まってくれた中高生は、生徒会やボランティア活動に参加するような積極的な生徒が中心だったため、意見のまとめや、議論も盛り上がりましたが、多くの生徒へ広げようと思った場合、まだまだ改善の余地はあると思います。

(6) 神大ボランティア室へのヒアリング

大学生は地域活動へ参加してくれるのか、その可能性について調査するため、神奈川大学ボランティア支援室の学生に対し、ボランティア活動や地域への関心についてヒアリングしました。

◇ヒアリングより

- ・大学周辺で、地域とのつながりは特にはない。
- ・ボランティアは、子育てや福祉系が多く、震災以降は被災地支援がメイン。
- ・自分も楽しみ、相手にも楽しんでもらうスタイルでボランティアに関わっている。

◇考察

- ・趣味や遊びに熱心な学生も多い一方、少数派ながらボランティアをやりたい人もいるので、このような人たちにアクセスできれば、つながれる可能性を感じました。
- ・気軽に楽しく社会貢献をするスタイルを望むようであり、中高生とは違ったアプローチが必要だと感じました。

4. 地域行事のボランティア

部会委員が自分の活動する地域で行っている、中学生を地域活動に巻き込むための取り組み事例を紹介します。特徴として、参加者として来てもらうのではなく、地域行事のボランティアとして来てもらうように、学校や中学生に呼びかけを行いました。

- ・行事の一部を担った達成感からか、中学生の満足度は高いものでした。
- ・手伝いを通じて、地域の人と中高生とのコミュニケーションも生まれたようでした。
- ・仲間に参加できることも、満足度を高める要因だと感じました。



七島町防災訓練

炊き出しを手伝う中学生

浦島丘中学校の生徒9名



区民まつり

たこ焼きづくりを手伝う中学生

神奈川中学校の野球部8名

5. 提言

「参加を促す視点から、地域ぐるみで育成する視点へ」

レクリエーションや地域行事に参加してもらう視点から、地域ぐるみで将来の地域の担い手となる中高生を育成する視点へと変えていくことが重要と考えています。

①学校が、生徒の地域活動を評価する体制づくり

地域ボランティアは青少年の社会教育としての効果もあります。内申書などで、これを評価する姿勢は、中高生の地域への参加意欲を高めることにつながります。

②地域が、中高生を実行者の一員として迎え入れる環境づくり

中高生に任せることは、達成感を与えることができます。参加を呼び掛けるだけでなく、同じ目線で同じ行事をやっていこうという心構えで、できる範囲の仕事を任せてみると効果が期待できるでしょう。

6. おわりに

今回、中高生の参加を募るに当たって、地域で活躍する大人のつながりを基点にした動員が、最も効果を発揮しました。今後、中高生がより地域とつながるには、今回提言までできなかった、地域で活躍する大人を増やしていくことも重要だと認識しています。また、中高生ミーティングのような対話の場も、中高生を地域につなげる可能性を感じました。青少年の時期に学校外で地域の学生や大人たちと対話した経験は、10年後 20年後の将来に、地域の担い手として活躍する可能性を広げるものと思っています。

《つながろう会 活動記録》

部会 (27回)	平成 22 年、9/14, 10/12, 11/2, 12/14
	平成 23 年、1/11, 2/8, 2/25, 3/8, 3/19, 4/11, 5/10, 6/14, 7/12, 8/19, 9/14, 10/11, 11/8, 12/13
	平成 24 年、1/10, 2/1, 2/14, 3/13, 3/29, 4/10, 4/17, 5/8, 6/12
中高生ミーティング (4回)	平成 23 年、5/28, 9/25, 11/20 平成 24 年、3/24
ヒアリング (1回)	平成 23 年、12/20 神奈川大学ボランティア支援室

全 32 回の活動